

## 第5回関西障害学生支援担当者懇談会アンケート結果

### - 現在抱えている課題 -

#### A. 支援学生の確保

- 学生サポーター（ノートテイカー・PC テイカー）の確保。
  - ・テイカーの人数確保。
  - ・支援学生の確保。
  - ・サポートできるスタッフ学生の確保がかなり困難。
  - ・支援学生をどう増やしていくか。
  - ・手話サークルに介助をお願いしているが、人数不足。
  - ・小さな単科大学のため支援をする学生の確保が心配。
  - ・介助者の確保。
- ノートテイク技術の向上の方法。
  - ・スタッフのスキルアップ等。
- 支援方法の確立。
- モチベーションの維持。
- シフトの組み方（コーディネーター不在による）に頭を抱えている。
- 聴覚障害学生が多く、サポートに困っています。

#### B. 学内啓発

- 教員への理解啓蒙、連携。
- 支援についての教員の協力体制確立。
- 教職員の意識改革。
- 教員への情報提供について。
- 大学組織上層部の意識について。どのように意義を伝えるか。

#### C. 情報共有とネットワーク構築

- 情報共有と情報提供について。
  - ・情報共有や対応方法の知識について不足していると感じる。
  - ・他大学の情報を共有できるシステムを築いてほしい。
  - ・内部での情報、思いの共有。
  - ・連携を図る上での教職員間、保護者との情報共有システムをどうつくっていくのか。支援に結びつく体制づくりの難しさを感じている。
- 大学内でどのように障害学生支援のネットワークを作るべきなのか
  - ・ネットワーク作りに対して、大学としてのどこまで組織として対応してもらえるか、理解と実行について。
  - ・各関係部署とのネットワークの確立。
  - ・他部署との連携。

○学外との連携

- ・高校との支援方法の連携が出来れば。

○個人情報の保護

#### D. 支援体制

○専門のサポート部署が無い。

- ・支援体制のシステム化。
- ・障害学生をワンストップで受けとめる部署を定め、専門的コーディネーターの確保と他の関連部署との連携のシステムづくりが課題。

○統一されたポリシーの準備が必要。

- ・対象学生が入学した際に、すぐに支援をできるようにサポートポリシー、担当部署が必要。

○身体学生支援のための予算確保。

○受入れ事例のない障害（視覚障害）の受入態勢。

#### E. 発達障害

○発達障害学生への対応。

- ・発達障害等があり、不登校になっていると思われる学生の対応。
- ・発達障害学生への支援。
- ・特に診断は受けていないけど疑われるケースなど。
- ・特に発達障がいのある学生に対する支援の仕方、具体的にどのように対応していくか。
- ・発達障害の学生に対する対応。依存された場合など、これまでとは違う対応が必要となり、キーマンの負担が大きい。
- ・実際に本人や保護者が自覚を持っている場合は、支援側は実働しやすい面もある。一方顕著に特徴を示してはいるが障害者手帳の交付を受けていない学生への支援や、障害者認定に至らない学生支援について大変困っている。
- ・コミュニケーションをとるのがむずかしい学生で、客観的に発達障害と見受けられるが、両親の認識がなく、学生間トラブルになるケースがあり、どのように関わっていけば良いかむずかしい。
- ・発達障害や学習障害学生の発見を含め、不登校、ひきこもりで欠席の多い学生について、成績チェック、単位取得状況のチェックで、対象学生の早期発見につなげようと検討している。その上で、各学生がどのような支援を求めているのか、大学として何ができるかを模索しつつある。
- ・発達障害の学生への対応方法。個々に学生相談室からの連絡を元に各教員に対応依頼しているが、学生課、学生相談室からの連絡待ち状態であるため、事務室としてこのままでいいのか。
- ・本人から申し出のない場合、低学力（学習障害）、発達障害等の判断がむずかしい。

○発達障害学生の就職支援。

#### **F. その他**

○支援が必要な障害が増えている。

- ・要支援学生の範囲、学習支援の内容について、まだまだ流動的な自己理解。どんどんふくらんでいるように思う。

○依頼者（障害学生）と介助者（有償ボランティア）の間のトラブルの対処方法

- ・授業中居眠りをしてしまい介助者が困っている。

○専門的な知識と経験が少ないので、その都度少ない経験を基に取り組んでいる。

以上